

所 信 の 表 明

礼文町長 小野 徹

本日、ここに新しく選ばれました議員各位をお迎えして、平成25年第3回礼文町議会臨時会を開催するにあたり、今後四年間の私の町政に対する所信を申し述べ、町議会議員各位並びに町民皆様のご理解とご協力を頂きたいと思っております。

私は、去る6月25日に告示されました礼文町長選挙におきまして、本町初の三期連続無投票当選の栄に浴することができ、心から感謝をしているところでございます。

その責任の重さを力とし、町民みなさんの想いと「声なき声」もしっかりと受け止め、心を砕いて頑張っていくこと。そして「ふるさと礼文町」を築いてこられた先人の逞しい気概に学び、私に与えられた職責を全身全霊で務める決意であります。

私は、いつも、人と人とのつながりの大切さを肝に銘じながら仕事をさせていただいてまいりました。町長として、いろいろな人と出会い、たくさんのおつながりの中で、町の進んでいく道が開けたことは数知れませんし、礼文町が多くの皆さんとのつながりの中、大きなご縁をいただいて取組めたことが沢山ありました。

これからも、たくさんの人たちとのつながりの中で、たくさんのご縁を大切にして、町の発展をめざしてまいりたいと考えております。

さて、この8年間を顧みますと、厳しい行財政改革に取り組みながら「元気のでるまちづくり」に努めてまいりましたが、わが町が抱えている最も重要で根源的かつ緊急を要することとして、ふたつの課題があると考えております。

ひとつは「人口減少の問題」、もうひとつが「地域経済活性化の問題」であります。

申し上げるまでもなく、人口の減少は地域の経済を縮小させ、地方交付税をも左右するものであります。私は、町の財政にとって定住等人口施策の重要性をあらためて認識したところであります。このため、人口の減少は町財政を圧迫するだけでなく、町全体の経済や日常生活に大きく影響することから、人口対策、定住施策をより一層進め、このふたつの問題を解決して、これからの礼文町の発展と活性化につなげようと、このたびの選挙において、町民のみなさんに「未来に元気のタネをまいて、元気なふるさとにしたい」と約束をいたしました。私の思いは、「もっと若い人たちが安心して住めるようにする」ことであり、「子供たちの明るい声があふれる元気な町をつかって、人口減少に立ち向かう」ことであります。私は、必要とされることを優先して取り組んでいくこと、「島の未来は自ら切り拓くと云う志、熱いふるさとへの思い、そして、気概」を持ち、たくさんのご縁を大切にして課題解決に向かって果敢に挑戦してまいります。

まずは、人口が3,000人を割り込んだ今、「真っ先に、若い漁業者の住宅問題、居住環境、それに子育て環境を改善しなければならないと思っています。

それは、本町の基幹産業である漁業の生活基盤、環境を安定させ、力強いものとして、若い漁業者の皆さんが安心して漁に出られるようにすることが必要だと考えるからであります。

このため、早期に、空き家の活用や漁業者住宅の新規建設などを行い、若い漁業者の住宅環境改善に努めてまいります。

また、国の新規就業者支援制度を活用するとともに、町としても、新たに独自の漁業後継者支援制度をつかって、若い漁業者への支援を拡充して漁業後継者を増やし、島の漁業基盤を力強いものにしていきたいと考えております。

さらに、低迷を続ける観光の振興も必要であります。お客様(観光客)を増やすには、観光に携わる人だけでなく、島に生きる人すべてが、お客様を親切丁寧にお迎えすることが必要です。また、お客様の立場になった受入環境づくりが必要と云われており、礼文島においてになったお客様に満足していただいて、また来たいと思っていただけるようにする環境、システムをつくらなければなりません。「北のカナリアパーク」もオープンしました。礼文島の観光は、自然に浸り、希少な高山植物や雄大な景観を目や肌で感じながらゆったりと楽しむことに醍醐味があると云われています。例えば、香深港でフェリーを降りたら、そこには「ビジターセンター」があって、そこで観光客の皆さんは自然や遊歩道などの観光情報を受けて、トレッキングに出かけることができるシステムをつくること。また、島中をこまめに回るバスがあって、トレッキングコースの入口や出口で気軽に乗り降りできるアクセスがあること。

トレッキングコースも利用度の高い一般的なコースから自然度の高いものまで段階的に管理されているというコースづくりを行うとともに、歩くばかりでなく、クルージング等を利用したコースがあること。

私は、「礼文島ならでは・・・」とか「礼文島しか・・・」という礼文島でなければ体験できないこと、味わうことのできないもの=所謂お客様の立場になった「オンリーワン」=を備えることがとても重要と思います。

「礼文島では自然にやさしい体験ができる」というサービスを整えることができたなら満足度はさらに高まります。非常に難しいことですが、民間の人たちの力をいただいて、観光振興にも積極的に取り組んでいきたいと考えております。

「礼文島は宝の島」であります。ほかの地域にはない礼文島の宝を磨いて、私は、観光客で賑わう礼文島を復活させる「観光の振興」と力強い「観光の基盤」をつくり、「天然温泉うすゆきの湯」を活かした「最北の癒しの島づくり」を進めてまいります。

二つ目は、若者の雇用の場拡大対策の積極的な推進であります。昨年12月に民間と連携して立ち上げた「礼文町水産加工品開発協議会」では、現在、最新鋭の冷凍技術等を使って、地域の海産物資源を生かした新しい加工品の独自開発を行なっております。民間の皆さんの柔らかな発想と豊かな経験で、礼文島ブランドの加工品を開発して、「外貨を稼いで」若い人たちの雇用の場をつくり、地域経済の活性化を図っていくという息の長い取り組みであります。よく「民間でできることは民間で」と云われますが、遠く離れた小さな離島においては、逆に、民の仕事を官が行うくらいの意気込みが必要だと思っています。長い時間と限りない熱意が必要となるわけではありますが、定住促進のためには働く場、雇用の場の拡大は欠かすことのできないものであります。大変難しい取り組みになりますが、加工品の独自開発だけでなく観光部門をも含め、積極的に新たな雇用を生み出す取り組み、新たな産業の創出に果敢に挑戦してまいります。

三つ目が、「子供たちは礼文の宝」「町づくりは人づくり」といわれるように、未来を担う子供たちを育み、礼文高校の魅力化を進める「教育の振興、子育て環境の改善」であります。

島の子供たちは「何よりも礼文のことをよく知っています。そして、礼文島のことが大好き。だから礼文島のためになることをしよう。」と頑張っています。

私は、そんな礼文の子供たちが世界に羽ばたいていく日を夢見ています。

本町は、学校・家庭・地域が強い連携のもとに子どもたちの豊かな成長を願う「ふるさとに学ぶ・礼文学」と確実な基礎の定着を図る「礼文検定」の二本を柱に「保育所、小学校、中学校、高等学校の教育連携」という特色ある「礼文の教育」が行われてきました。

今も、それは多くの皆さんのお力に支えられ、全国からも絶賛されております。私は、このことに感謝しながら、さらに、「心の豊かさ」や「地域に学ぶ」教育活動が推進されるよう努めてまいります。

中でも、礼文高校は島で唯一の高等学校であり、「保育所～小中高教育連携の中軸」であります。

島の環境をいかした高校づくりが地域振興や次代を担う人材育成につながって、町の将来に欠かすことのできない重要な存在にするために、魅力ある礼文高校づくりを進めてまいります。

また、未来を担う子供たちの笑顔は、「礼文の宝」です。お母さんが安心して子供を産むことができるように「妊婦検診の全額負担」と「フェリー運賃全額助成・宿泊費一部助成」を引き続き継続してまいります。また、現在、中学生まで医療費の無料化を実施していますが、将来は18歳(高校生)までの無料化を検討したいと考えております。

子育て支援については、「親子遊・ゆうスペース」の拡充、さらに、保育サービスの拡充なども検討し、安心して安全に子育てができる環境を整えてまいります。

時は今、離島振興法が今年から 10 年間延長され、離島に住み続けるためのいろいろな施策ができるようになりました。殊に、ソフト施策が充実されましたが、「礼文島が元気な島であるためには」ほかにもまだまだ課題は山積しており、一人暮らしのお年寄りを地域社会で見守っていくことや、医療、福祉、介護、保健はもちろん、環境、ごみ処理、上下水道、道路、港湾、漁港、防災など、離島で安心して暮らすためのサービスやインフラ等の整備はまだまだこれからあります。

したがって、私は、礼文町の将来を展望し、今後も財源の確保に努めて、「定住の促進」「交流の促進」そして「安心安全の向上」のため、産業を振興させて若い人たちの働く場、雇用の場を増やし、地域の経済力を高めて、福祉や医療、教育、地域防災などを支える社会基盤を確保し、安心して暮らしていける町づくりを進めてまいります。

特に、先ほど申し上げましたように、このたびの選挙を通して「未来に元気のタネをまいて、元気なふるさとにする」と町民のみなさんにお約束をした、若い漁業者への支援強化、住宅問題、居住環境、子育て環境を改善することや、若い人たちが安心して働ける場、雇用の場づくり、観光の振興あるいは教育環境、子育て環境を充実させて、安心して暮らすことができるよう島の将来のために今、やらなければならないとお約束した「三つの重点事業」については、早急に離島活性化事業や離島活性化交付金事業、さらに過疎ソフト事業、あるいは農山漁村活性化プロジェクト支援交付金制度など国や北海道の既存の制度を活用し、情熱を持って、早期に礼文町に元気を取り戻し、みなさんが住むことに誇りを持つことができるように、この三つの公約を優先して取り組んでまいります。

結びになりますが、先人が築き上げてこられたふるさとに誇りを持ち、住んでよかったと誇れる活力あふ

れる元気な礼文にすることが私の願いであり、愛する家族のために、お世話になる地域社会のために、そして、ふるさとの限りない発展のために「礼文町の未来に元気のタネ」をまき、次の世代に誇りと自信を持って引き継いでいける「夢と希望に満ちあふれた元気な町」「住んでよかったと誇りに思えるふるさと」を創り上げることでございます。

そのために、今、何をすべきかをご提案申しあげ、議員の皆様、町民の皆様とともに元気な町づくりを進めていくことが、私に課せられた大きな役割と考えています。

基本はいつも「私達の仕事は、町民みなさんの幸せのためにある」ということでもあります。議員各位におかれましても、今一度、この認識を共有していただき、ともに「元気なふるさと」を築くため、尚一層のご支援ご協力を賜りますよう、心からお願いを申し上げます、所信の表明といたします。